



安川電機 (6506)

2011年度第2四半期決算説明会:要約版 (2011年10月18日)

2011年3月21日～2011年9月20日

取締役社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

■ 2011年度上期(4-9月期)決算について

- ・上期連結決算のポイント
- ・上期連結セグメント別業績
- ・営業利益増減要因分析 (2010年度上期 ⇒ 2011年度上期)
- ・事業セグメント別売上高構成比 (2010年度上期 ⇒ 2011年度上期)
- ・仕向先別売上高 (2010年度上期 ⇒ 2011年度上期)
- ・仕向先別売上高構成比
- ・四半期連結売上高推移 (セグメント別・仕向先別)
(仕向先別 / モーションコントロール・ロボット)

■ 2011年度下期および通期について

- ・下期の事業環境見通し
- ・通期連結業績見通しのポイント
- ・通期連結セグメント別業績見通し
- ・営業利益増減要因分析 (10/通期 ⇒ 11/通期今回予想)
- ・下期における強化策

- (参考) ・設備投資、研究開発費、為替状況
- ・B/S構造の推移(連結)
 - ・00～11年度連結売上高・営業利益推移
 - ・主要生産拠点
 - ・アジア地域における取り組み

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

ACサーボは、工作機械、ロボット、食品・包装機械、印刷機械等に組み込まれています。半導体や電子部品装置に使われるほか、プレス関連、射出成形機等へも用途が拡大しています。

インバータは、産業機械はもちろん、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、健康医療関連機器等の民生分野や、エレベータ、クレーンといった輸送機器にも使われています。無駄な電力消費を抑え、省エネに貢献する機器として脚光を浴びています。



【ACサーボ適用事例】チップマウンタ



【インバータ適用事例】
エスカレータ

ロボット:(R)

ロボットは、自動車、電機関連市場を中心に、溶接、塗装、ハンドリング、搬送等の各種工程の自動化に貢献しています。

また、半導体市場ではクリーンロボット、真空ロボットが使われるほか、液晶市場では、ガラス基板搬送用途にロボットが使われます。



4台のロボットによる
協調溶接



双腕ロボットによる
製品組立



第10世代液晶搬送ロボット

システムエンジニアリング:(S)

システムエンジニアリングは、製鉄所や水処理(上下水)等、皆様の生活に欠かせないプラントシステム設備の安定稼動に役立っています。

また、ポンプ、ブロワなどの風水力機械設備の省エネ対策として、高圧インバータの需要も拡大しています。



上下水道システム



連続 casting 設備



製鉄所の
監視制御装置

情報:(情報)

情報事業では、当社グループ会社のうち、情報事業関連の安川情報システム(株)および(株)ワイ・イー・データの2社が、ソフトウェア開発、コンピュータ周辺機器事業等を行っております。



ハイパワーレーザ対応スキャナヘッド



NetSHAKER ProxyBox

2011年度上期連結決算のポイント

中国・アジアの好調、欧・米・日本の回復、費用抑制等により
(M)モーションコントロール、(R)ロボットを中心に売上・損益とも大きく改善
東日本大震災によるサプライチェーンの悪影響を最小限に止めた

	<u>11年度上期</u>	10年度上期	<u>前年同期比</u>	
売上高	<u>1,580億円</u>	1,394億円	<u>+185億円</u>	<u>+13.3%</u>
営業利益	<u>92億円</u>	34億円	<u>+57億円</u>	<u>+166.0%</u>
経常利益	<u>92億円</u>	34億円	<u>+58億円</u>	<u>+167.3%</u>
当期純利益	<u>64億円</u>	17億円	<u>+47億円</u>	<u>+281.7%</u>

2011年度上期連結セグメント別業績①

(M)モーションコントロール、(R)ロボット等が牽引し、修正予想を上回る

(単位:億円、%)

	11/上期				修正予想比 増減額	10/上期	前年同期比	
	1Q	2Q	実績	修正予想			増減額	増減率
売上高	764	815	1,580	1,550	+30	1,394	+185	+13.3%
(M) モーションコントロール	432	410	843	846	▲3	766	+76	+10.0%
(R) ロボット	220	265	485	473	+12	379	+106	+28.1%
(S) システムエンジニアリング	65	77	143	134	+9	138	+4	+3.4%
情報	24	36	60	62	▲2	70	▲10	▲14.4%
営業利益	47	45	92	80	+12	34	+57	+166.0%
(M) モーションコントロール	39	20	60	57	+3	41	+18	+44.5%
(R) ロボット	10	21	31	26	+5	▲5	+37	n.m.
(S) システムエンジニアリング	▲1	2	0	▲5	+5	1	▲0	▲61.3%
情報	▲2	1	▲0	▲0	▲0	▲5	+4	n.m.
経常利益	47	45	92	80	+12	34	+58	+167.3%
当期純利益	37	27	64	57	+7	17	+47	+281.7%

(注)表内「修正予想」は、2011年7月19日1Q決算発表時点の数値

2011年度上期連結セグメント別業績②

(M)：地域別では中国・アジアが堅調。インバータはインフラ関連および空調等の省エネ需要、ACサーボは好調な海外需要および新製品拡販により売上増加。部品調達強化により生産量を確保

(R)：海外は、中国・アジア向け自動車が堅調。米・欧も順調に回復。国内は、非自動車向け案件等を中心に売上回復。液晶の売上も一定水準を持続。採算重視の事業運営が進展

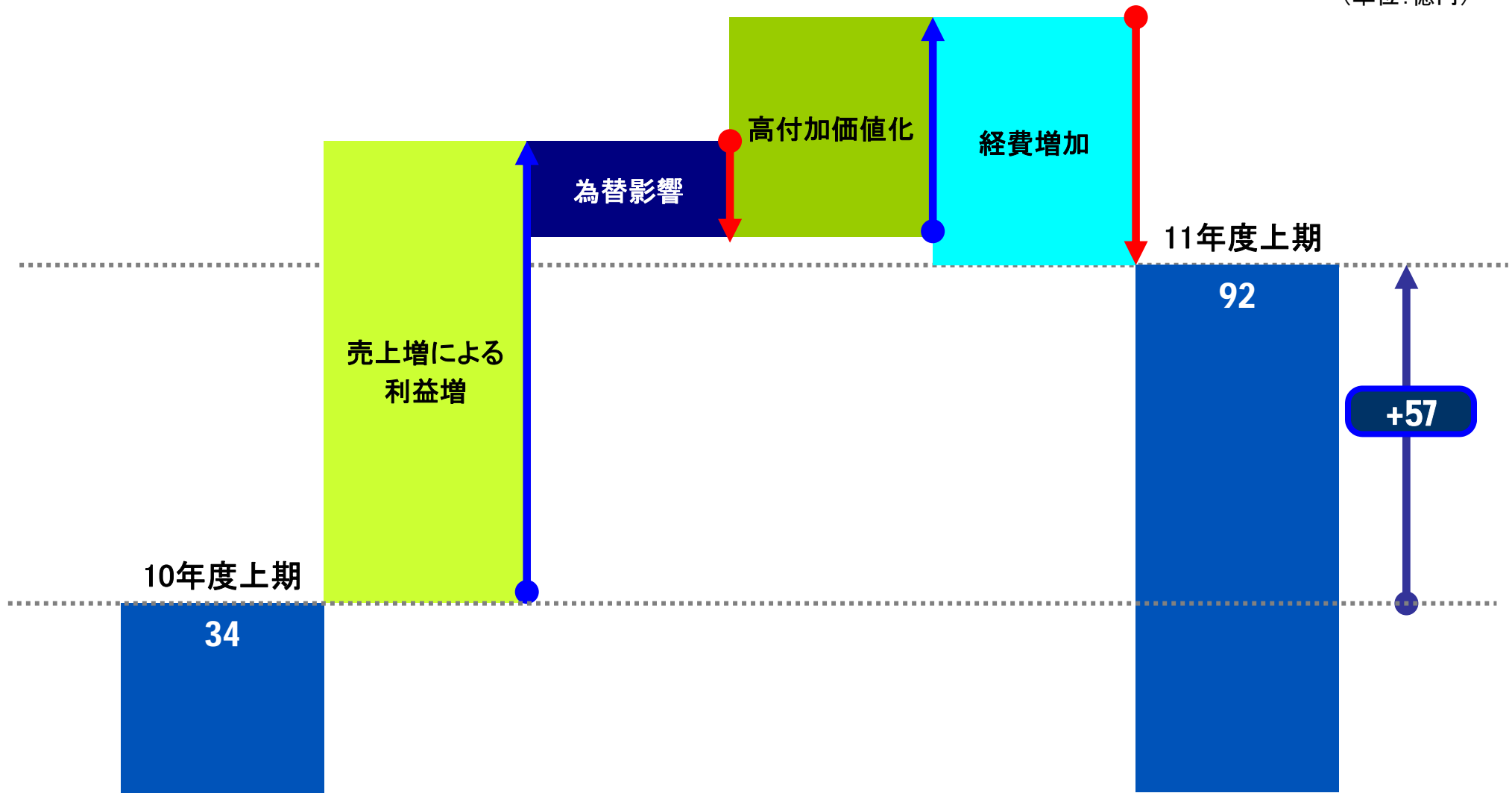
(S)：鉄鋼向け売上が低迷する中で、原価低減と採算管理により前年同期と同水準の採算を維持

(情報)：情報関連投資抑制の環境下で原価低減等により損失は大幅に減少

(注)表記：(M)＝モーションコントロール (R)＝ロボット (S)＝システムエンジニアリング

営業利益増減要因分析 (2010年度上期⇒2011年度上期)

(単位: 億円)

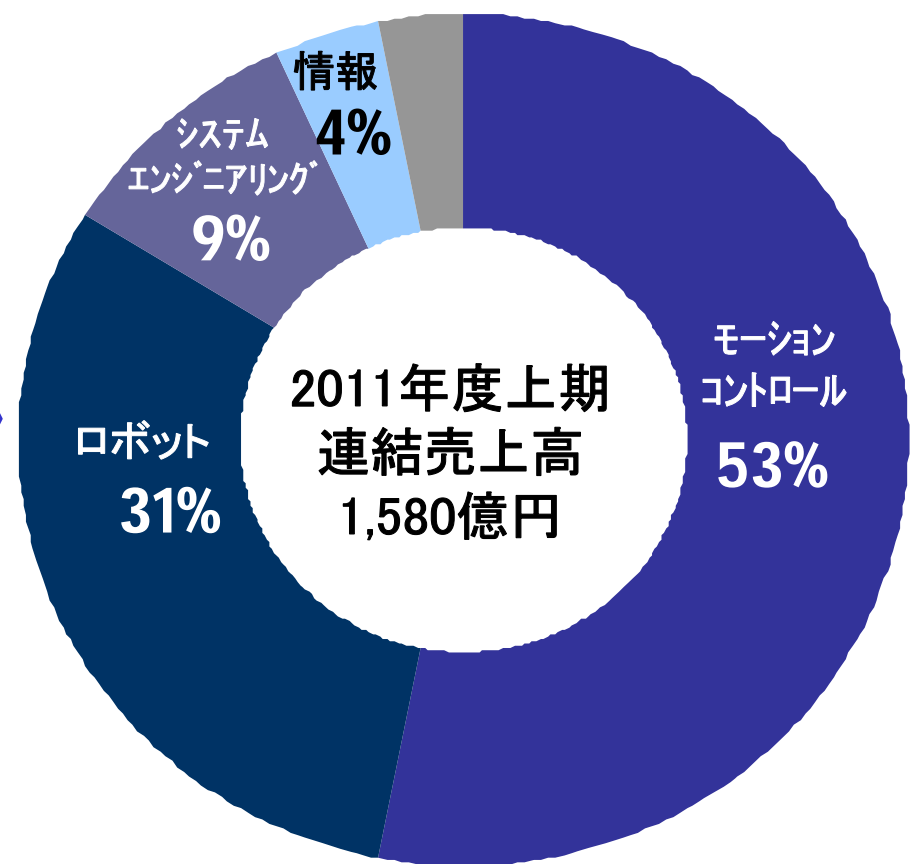
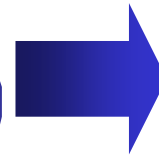
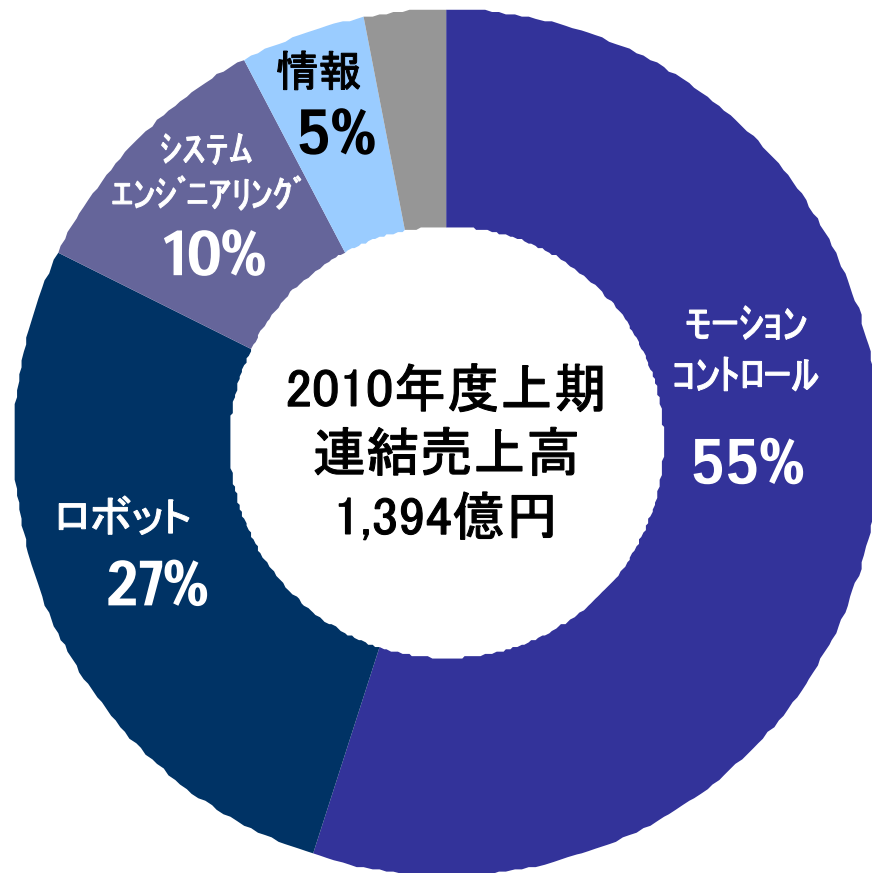


事業セグメント別売上高構成比

(R)ロボットが大きく伸長し、構成比が増大

10年度上期

11年度上期



仕向先別売上高（2010年度上期⇒2011年度上期）

海外・国内ともに売上が伸びた。特に海外向けは、

前年比19%の増加

（単位：億円、%）

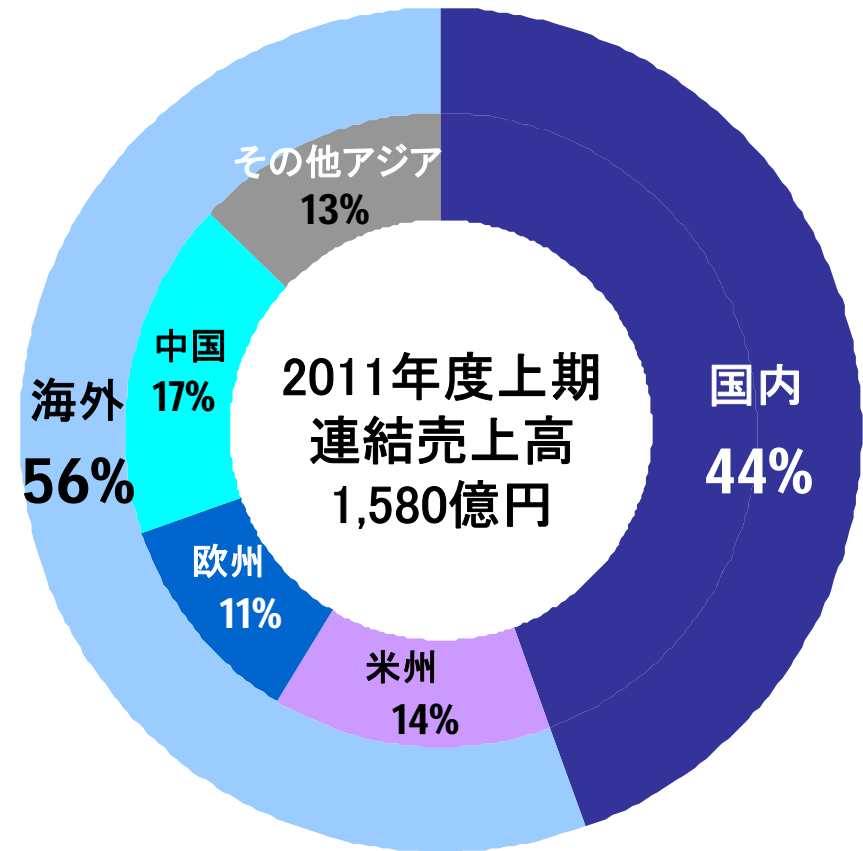
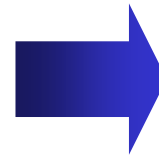
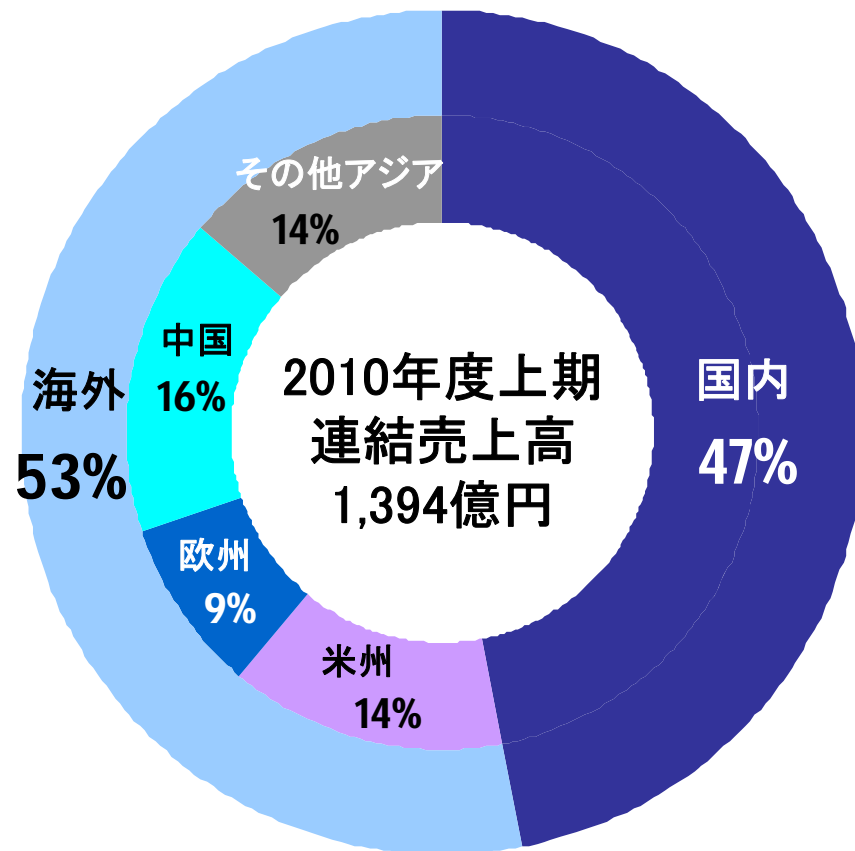
	11年度 上期	10年度 上期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,580	1,394	+185	+13.3%
国内	701	656	+44	+6.8%
海外	878	737	+140	+19.1%
米州	219	192	+27	+14.3%
欧州	175	131	+44	+34.0%
中国	268	222	+46	+21.1%
その他アジア	207	188	+19	+10.2%

仕向先別売上高構成比

中国、欧・米の売上伸長により、海外構成比は56%へ拡大

10年度上期

11年度上期

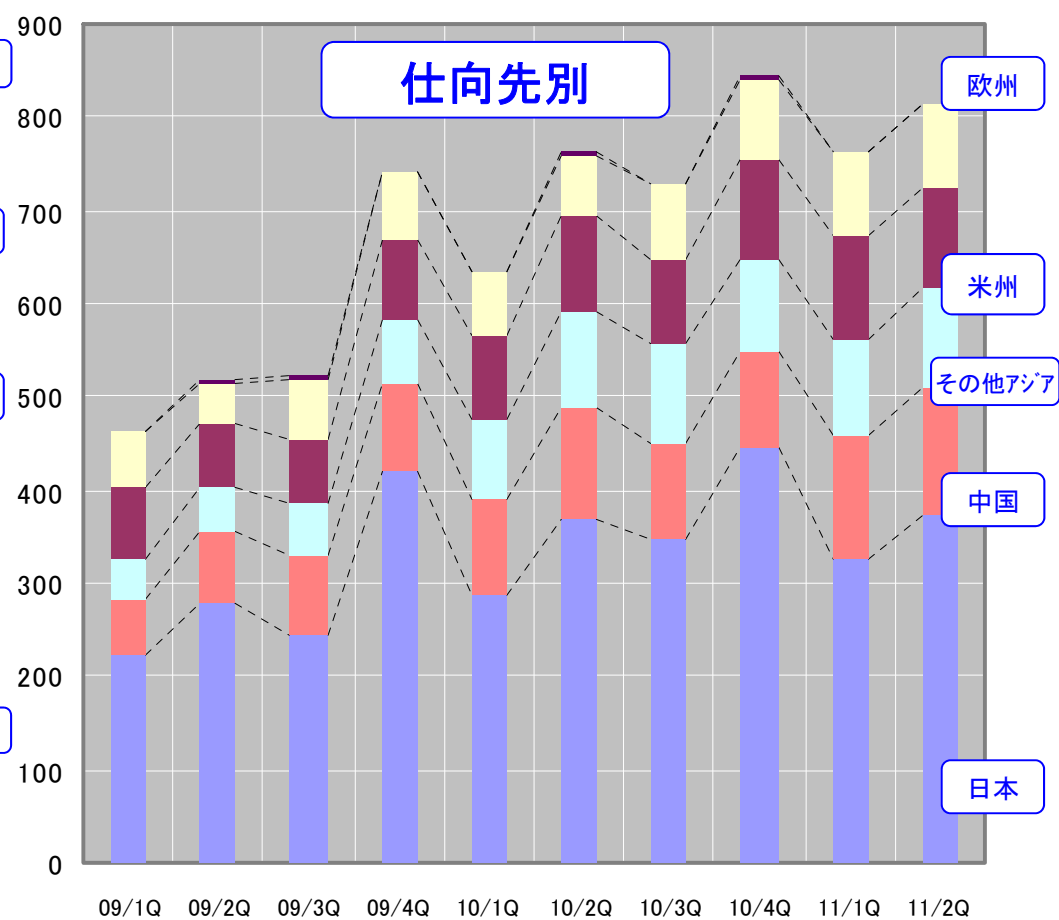
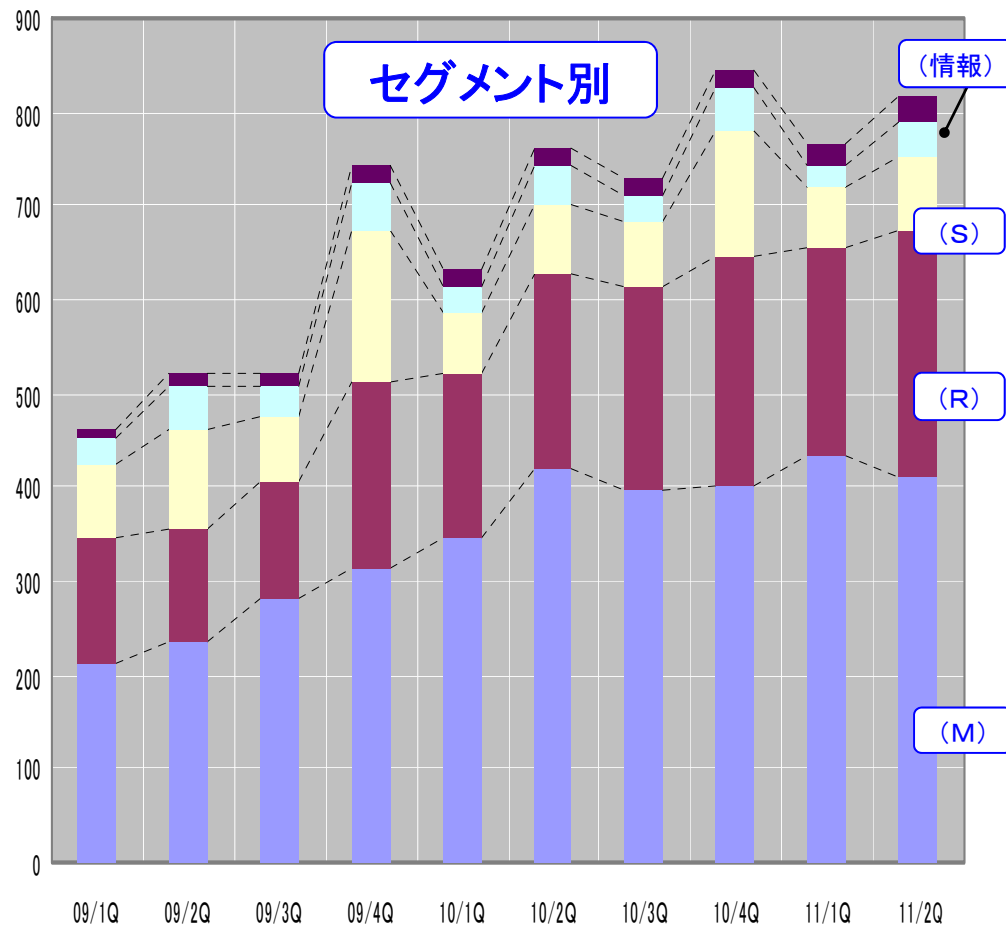


四半期連結売上高推移（セグメント別・仕向先別）

09/1Qをボトムに前年同期比
ベースで順調な回復

海外を中心に順調に拡大・回復、
日本も回復傾向

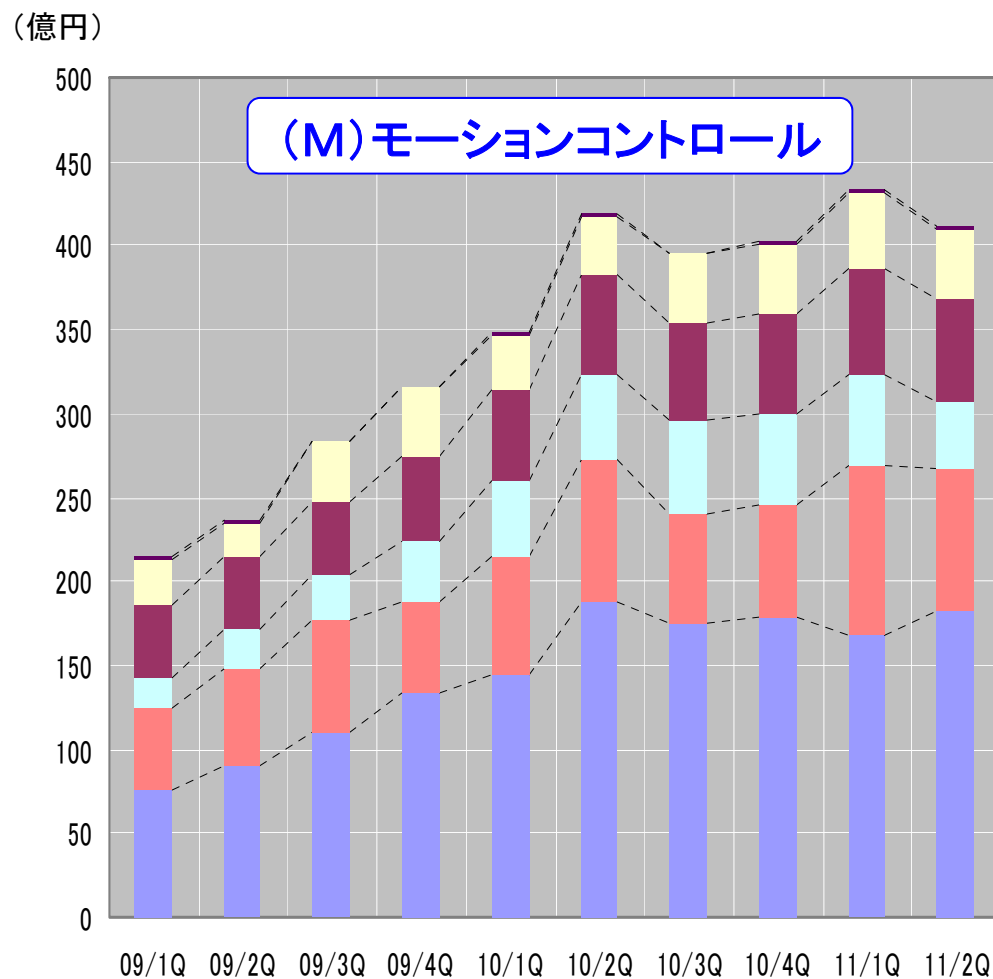
(億円)



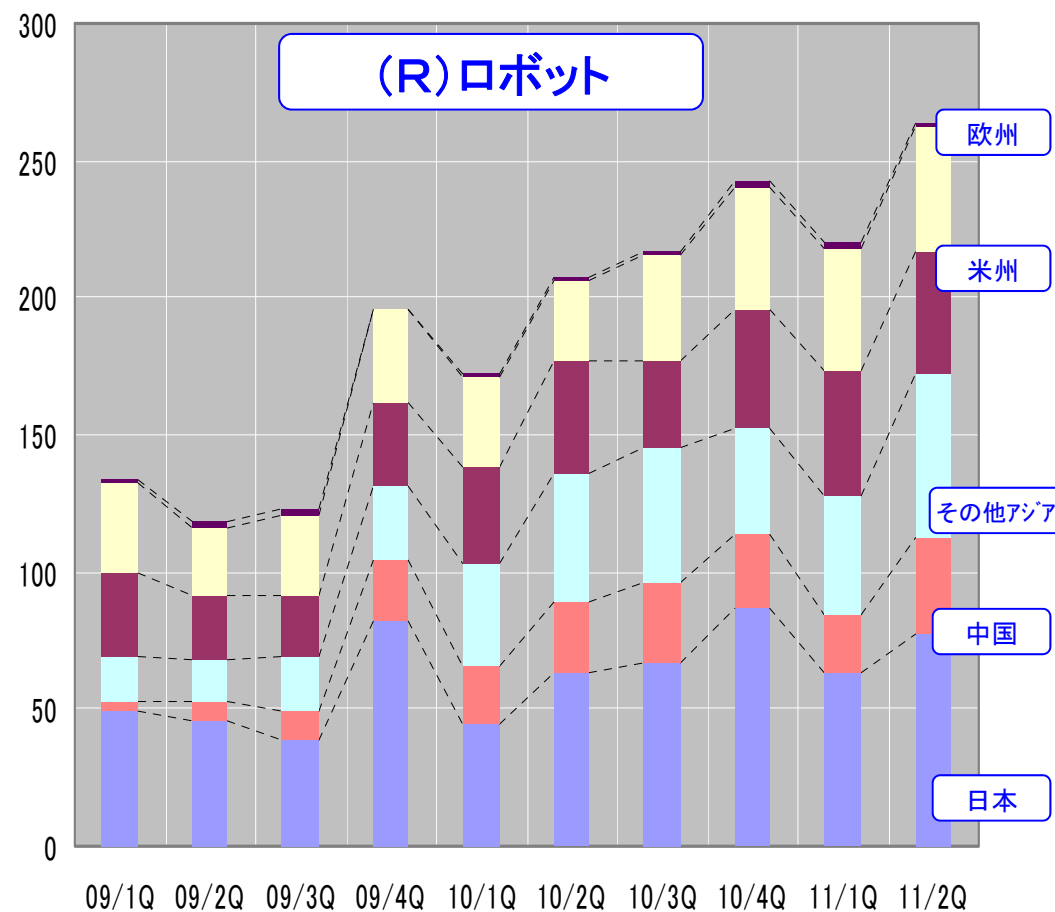
(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット (S)=システムエンジニアリング

(M)(R)四半期連結売上高推移（仕向先別）

11/2Qで減速傾向



前年同期比で着実に回復・拡大基調



(注) 表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット

2011年度下期の事業環境見通し

第2四半期から受注環境に変化。エレキ関連、中国の動向に注意を要する

(注)2011年度7-9月期(2Q)⇒2011年度下期動向

市場環境	半導体	→	パソコンの需要低迷で、年内は調整が続く。年明けから回復期待
	液晶	→	中国での大型パネル投資は減速。一方、スマートフォン、タブレット端末用中小型精細パネル向け設備投資は好調。有機ELも需要拡大
	自動車	→	中国・韓国は堅調。米欧は設備投資回復傾向。日本は回復加速
	鉄鋼	→	10年度に続き投資は端境期、環境関連投資は継続
	環境エネルギー	↗	省エネルギー、新エネルギーに関する需要は大震災により急拡大
地域動向	米州	↗	設備投資の回復基調が続く、過去ピークを越える勢い
	欧州	→	まだら模様ながら、回復基調持続。欧州金融不安に注視
	中国・アジア	→	金融引き締めによる減速が現実。しかし、域内需要は依然強い。自動化・ロボット化が追風
	日本	→	復興需要、自動車等の生産回復などが好転要因だが、海外需要の不透明感が残る

2011年度通期連結業績見通しのポイント

第2四半期からの受注減速、マグネット高騰、超円高の影響で通期業績予想を下方修正。(特に(M)モーションコントロール、半導体ロボット)

	11/上期	11/下期 今回予想	通期 今回予想	通期 前回予想	予想比 増減額	10/通期	前年比 増減額 増減率	
売上高	1,580億円	1,519億円	3,100億円	3,200億円	▲100億円	2,968億円	131億円	+4.4%
営業利益	92億円	47億円	140億円	200億円	▲60億円	128億円	11億円	+8.7%
経常利益	92億円	47億円	140億円	200億円	▲60億円	134億円	5億円	+4.2%
当期純利益	64億円	25億円	90億円	120億円	▲30億円	65億円	24億円	+37.5%

(注)表内「通期前回予想」は、2011年7月19日1Q決算発表時点の数値

2011年度通期連結セグメント別業績見通し

(M)：半導体・液晶・電子部品および中国市場の変調により、下期は
上期比減収減益の見通し

マグネット価格の高騰、超円高の影響も収益悪化要因

(R)：自動車は堅調を持続。非自動車分野の開拓も進み、一般産業は
売上を拡大。液晶は一定水準の売上を維持

但し、半導体は需要低迷により前年比減収の見通し

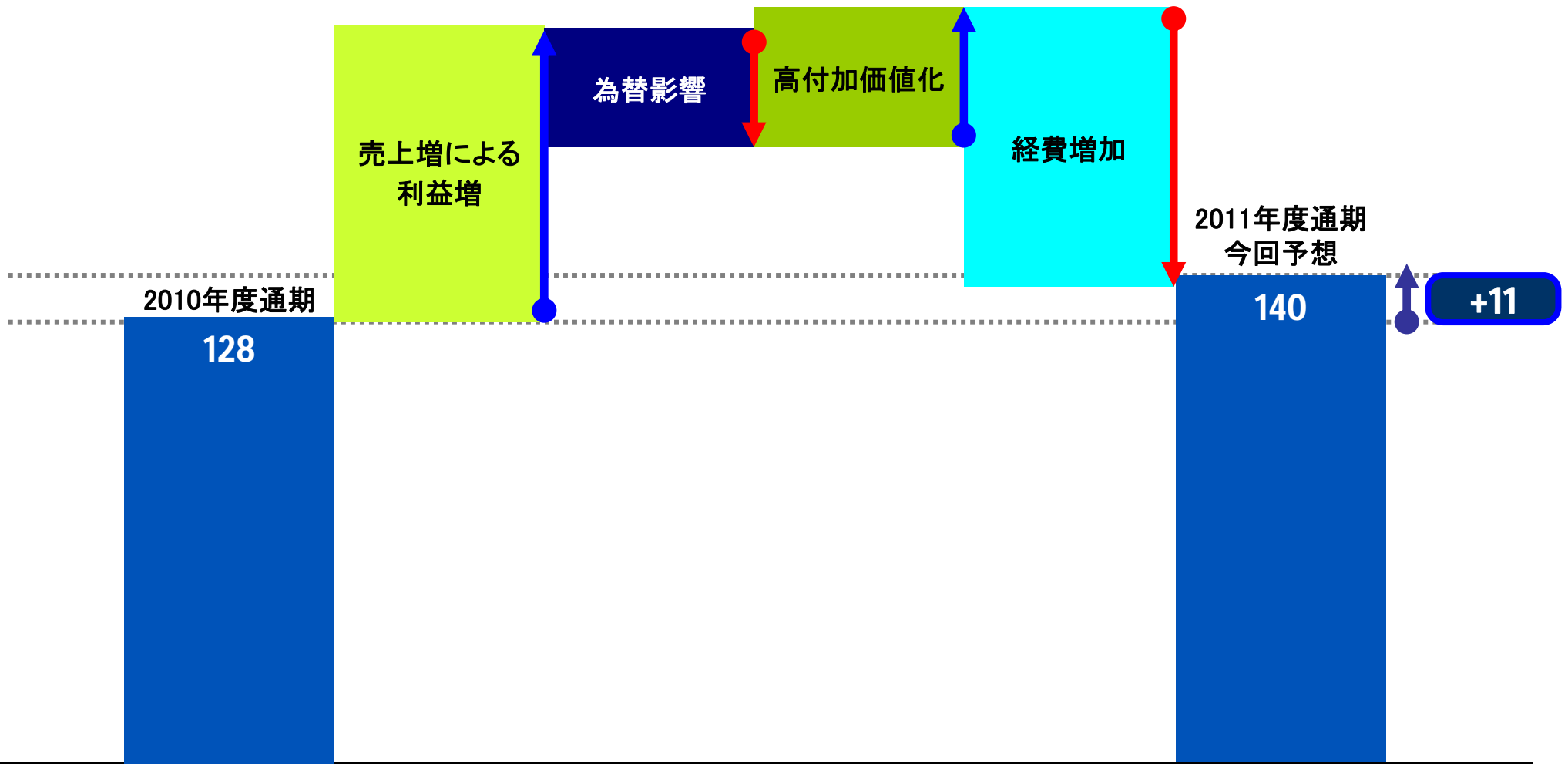
(S)：復旧需要などの取り組み、コスト削減などにより前回予想に対し
増収増益となる見通し

(情報)：情報関連投資抑制の影響で前年比減収となるも、原価低減等
により3期振りの黒字化を目指す

(注)表記：(M)＝モーションコントロール (R)＝ロボット (S)＝システムエンジニアリング

営業利益増減要因分析（10/通期⇒11/通期今回予想）

（単位：億円）



2011年度下期における強化策①

伸びる地域・市場、伸ばす市場への重点投資と採算改善

◆受注確保

- ・中国・アジアにおける販売力強化
 - 中国統括会社設立、営業拠点・生産拠点の強化・拡充
- ・ロボット拡販のための拠点強化・拡充
 - 日・米・欧の販売拠点拡充、中国・インドでの拠点強化
- ・主力製品・新製品による拡販

◆新規事業展開の加速

- ・太陽光発電システム、大形風力発電システム等の製品
ラインナップ拡大

2011年度下期における強化策②

◆超円高対策の強化

- ・海外生産、海外調達の拡大加速。コストダウン強化

◆マグネット価格高騰への対応

◆経費運営、投資のさらなる効率化

⇒ こうした施策の実行スピードを上げ、成長力および利益体質を強化する

(参考) 設備投資、研究開発費、為替状況

◆設備投資の状況 (連結)

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	2011年度想定
設備投資額	41.2	66.6	110.0
減価償却費	78.4	70.6	80.0

◆研究開発投資の状況 (連結)

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	2011年度想定
研究開発投資	84.9	97.2	110.0

◆為替状況 (単独)

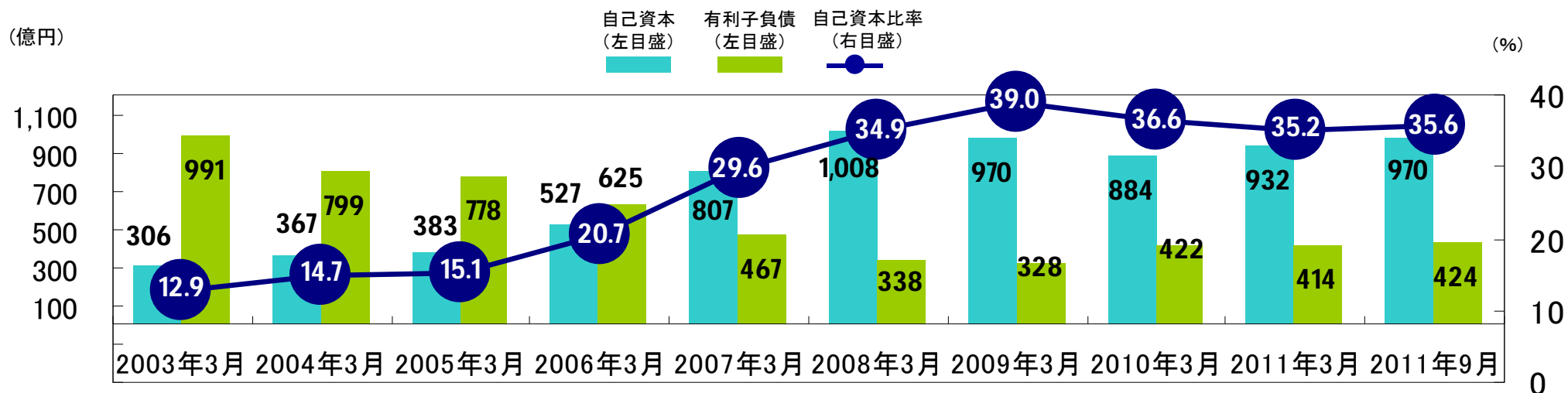
	2009年度			2010年度			2011年度想定		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
対 米ドル	95.58円	90.56円	92.44円	89.61円	82.85円	86.07円	80.43円	76.00円	78.42円
対 ユーロ	132.06円	130.12円	130.75円	114.85円	112.13円	113.26円	114.17円	102.00円	108.54円

(注)期中平均レート

(参考) B/S構造の推移(連結)

2011年3月期		2011年9月期	
➤ 自己資本比率	35.2%	➤ 自己資本比率	35.6%
➤ 自己資本	932億円	➤ 自己資本	970億円
➤ 有利子負債	414億円	➤ 有利子負債	424億円
➤ D/Eレシオ	0.44	➤ D/Eレシオ	0.44
➤ 棚卸資産 (回転月数)	581億円 (2.3ヵ月)	➤ 棚卸資産 (回転月数)	674億円 (2.5ヵ月)

※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用

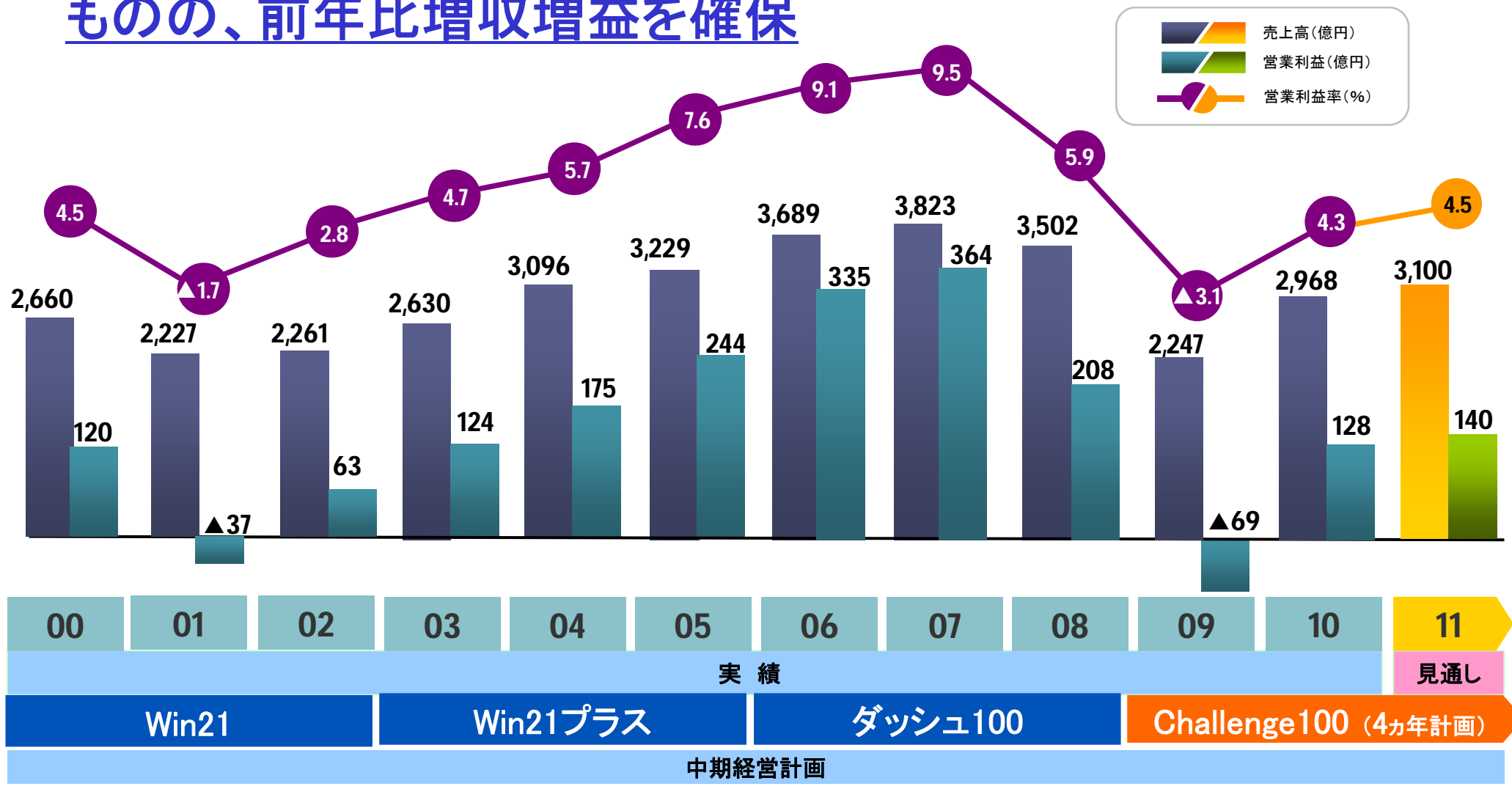


営業CF	84	185	57	187	149	176	124	40	24	121
投資CF	▲19	11	▲22	97	▲61	▲99	▲106	▲64	▲67	▲66
フリーCF	64	196	35	89	88	77	17	▲24	▲42	55

(億円)

(参考) 00～11年度連結売上高・営業利益推移

11年度は景気の変調、超円高、マグネット価格高騰はあるものの、前年比増収増益を確保



(参考) 主要生産拠点 (グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク)



(参考) アジア地域における取り組み

